

2020年9月25日

## 2020年度第1回 学校関係者評価委員会 議事録

学校法人山口学園  
ECC国際外語専門学校  
学校関係者評価委員会

学校法人山口学園ECC国際外語専門学校は、「学校関係者評価委員会規定」に基づき2020年度第1回学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

1 実施日時 2020年9月5日(土) 14:00 - 16:30

2 実施場所 ECC国際外語専門学校 1号館4階 401教室

### 3 学校関係者評価委員

#### (1) 関連業界等関係者

委員長	塩谷 典子氏	株式会社TEI 大阪支店 支店長
	三橋 滋子氏	一般社団法人 日本添乗サービス協会 会長
	下西 由子氏	大阪セントレジスホテル株式会社 ラニグ アド デイパ ロップ メト スパ-バ ヱ-
	小椋 圭一朗氏	社会福祉法人日本ヘレンケラー財団 副理事長
	西出 由佳氏	株式会社Kスカイ 旅客・営業部 マネージャー

#### (2) 地域関係者

中上 隆雄氏 済美地域社会福祉協議会 会長

#### (3) 高等学校関係者

貴治 康夫氏 立命館高等学校 教員

#### (4) 大学関係者

原 清治氏 佛教大学 副学長 教育学部教授

#### (5) 本校関係者

瀧山 淳一	ECC国際外語専門学校	学校長
大谷内 圭	ECC国際外語専門学校	副学校長・教務課責任者
伊藤 功	ECC国際外語専門学校	進学指導センター センター長
木村 泰一	ECC国際外語専門学校	日本語学科長
川添 雅英	ECC国際外語専門学校	専門課程留学生コース 責任者
東井 喜美	ECC国際外語専門学校	教務課副責任者
松井 治	ECC国際外語専門学校	グローバルコミュニケーションセンター 副責任者
山本 静香	ECC国際外語専門学校	英語課責任者
福本 雄三	ECC国際外語専門学校	進路指導課責任者
岡 恵一郎	ECC国際外語専門学校	学園広告広報課責任者
新谷 優貴子	ECC国際外語専門学校	教務課専任教員
山本 昂輝	ECC国際外語専門学校	進路指導課

#### 4 報告内容

##### (1) 開会挨拶【瀧山】

- ・今年度は新型コロナウイルスの影響により、不安定な学校運営が続いている。
- ・学生への登校時の検温、手指消毒を徹底して実施しており、今後も感染防止に力を入れて取り組んでいく。
- ・英検協会より4年連続9回目の「文部科学大臣賞」を受賞した。
- ・新たに3年制のエアラインコースの受け入れを開始し、運営を行っている。

##### (2) 学校概要【瀧山】

パワーポイント資料に基づき報告。

##### (3) 2019年度自己評価報告【各関係部署担当者】

別紙「2019年度自己評価報告書」に基づき報告。以下特記事項のみ記入。

##### ■基準3 教育活動

- ・新たに総合英語コース、国際ビジネスコースを職業実践専門課程として申請予定。  
【東井】
- ・キャリア教育を課題として考えており、今後はより企業各位と連携していきたい。  
【東井】
- ・授業アンケートについて、数値目標4.2の達成に向けて取り組む。【東井】
- ・専門課程留学生コースでは、課題解決型のインターンシップを行っている。【川添】
- ・進学指導センターでは、卒業生との連携、卒業後の情報把握が課題。【伊藤】

- 毎年、英語スピーチコンテスト実施しているが、今年は新型コロナウイルスの影響により中止となった。しかしながら、英語学習の成果発表の場として、2月にGEA（Global Education Awards）の実施を予定している。【松井】
- TOEICテストの学内受験率向上の為、カリキュラムを変更した。【山本静】
- 専任講師における1人当たりの授業担当数のガイドライン策定を進め、安定したコース運営を目指していく。【東井】
- 教員の考え方、指導方法を統一する必要があると考えている。【伊藤】
- 大学編入において、編入試験合格に偏らず、大学進学後も自ら課題を見つけ、解決できる教育への転換が必要と考えている。【伊藤】

#### ■基準4 学修成果

- 企業各位と連携し、学内説明会やセミナーを実施し、4年連続就職率100%を達成。今後はコース特性を活かした就職実績の向上が課題と考えている。【福本】
- 語学系コースのキャリア教育について、教育課程編成委員会での企業各位の意見をカリキュラムに反映していく。【福本】
- 学生の学力の2極化が進んでおり、ボトムアップが求められる。【山本静】
- 企業各位へ卒業生の状況確認を行っており、昨年388社へアンケートを送付し、131社より回答があった。今後は継続的なアンケートの実施と頂いた意見を学校運営に活かしていく。【福本】

#### ■基準5 学生支援

- 就職支援体制について、専用の指導室「キャリアサポートセンター」を設置。今後は、教職協同体制をさらに強化し、教職員一丸となって学生の就職活動を支援していく。【福本】
- 専門課程留学生コースでは、留学生の就職活動を支援する為、別途専用指導室を設けている。課題は学年毎の就職情報の共有と求人確保。【川添】
- 保護者連携強化を目的に、「保護者アプリ」を導入。【東井】
- 補講制度を見直し、学習成果を測る形式に改善した。【東井】
- 出席状況確認の効率化を目的に、「出席管理システム」を導入。【東井】
- 担任より学生の出席管理を徹底し、問題のある学生への対応を強化している。  
【伊藤】
- 留学生に対する相談体制として、専門の相談部署を設置している。【川添】
- 「高等教育の修学支援新制度」の認可を受け、対応を開始している。【瀧山】
- 例年保護者との連携強化を目的とした保護者会を開催しており、今年度は新型コロナウイルスの影響を考慮し、オンライン上でも面談を実施した。【東井】
- 卒業生への支援体制について、2017年度から同窓会を開催しており、今後は卒業生にとって有益な場となるよう取り組んでいく。また、昨年発足した学生会とも連携していく。【福本】
- 日本語学科では台湾でも同窓会を実施している。【木村】

#### ■基準6 教育環境

- 英語力向上を目的に、EIPプログラム、ELCプログラムを実施している。【松井】
- 学内のICT化において、Wi-Fi環境を強化した。また今年度後期より、進級年次生へPCを配布し、学習効果の向上を図る。【東井】
- 2019年よりJCSOSに加入し、留学における危機管理体制を強化した。しかしながら、今年度は新型コロナウイルスの影響により留学は中止。【新谷】
- 留学中止に伴い、留学代替プログラムが課題。海外大学生とオンライン上での交流などを行っていく。【山本静】
- 新型コロナウイルス感染防止対策として、学年別時差登校や検温、手指消毒を徹底して行った。また、学生や教職員へ感染防止の対応マニュアルを配布。1名感染者がでたが、保健所の指導のもと適切に対応した。【伊藤】

#### ■基準7 学生の募集と受入れ

- 学生募集については、高等学校との連携、学内募集イベント、適正な入学選考、入学までのケアから成り立つものとして、継続的に活動を行っている。【岡】
- 日本語学科では、海外現地に行き募集活動を行っている。また留学生の在留資格交付支援もっており、97%以上認可されている。【木村】
- 学生募集において、高校生のニーズが多様化してきている為、個別対応の機会を増やし取り組んでいる。【岡】
- 留学生募集においても、日本人と同様にオープンキャンパスへの参加を促している。【木村】
- 大学編入コースの募集において、コースの価値をPRし、例年以上に早期の学生獲得に力を入れていく。【伊藤】
- 入学時の選考情報をオンライン上で共有し、情報共有の強化をしている。【岡】
- 「高等教育の修学支援新制度」や本校独自の学費減免制度等については、入学生への案内を正しく、責任を持って伝えている。【岡】

#### ■基準8 財務

別紙にて確認。

#### ■基準9 法令等の遵守

別紙にて確認。

#### ■基準10 社会貢献・地域貢献

- 今年度は新型コロナウイルスの影響により、実施機会なし。【大谷内】
- 国際交流に関しては、グローバルカレッジネットワークに加盟し、世界の加盟校との交流を行っている。【松井】
- 日本人と留学生の交流の場を設けている。【木村】
- 社会貢献センターを設置し、ボランティア活動推奨を行っている。また、学生アプリにて毎月ボランティア情報を発信している。【大谷内】

#### ■基準 1 教育理念・目的・育成人材像

- ・今後も企業、業界が求める人材育成にむけて取り組んでいく。【瀧山】
- ・教育課程編成委員会では、授業見学の場を設け、企業各位より意見を頂いている。【瀧山】
- ・日本語学科では将来就職、進学を目指せる日本語力の習得を目標としている。【木村】
- ・専門課程留学生コースでは、外国人としての特性を活かして、日本社会に貢献できる人材育成を行っている。【川添】
- ・進学指導センターでは、大学編入試験の合格だけでなく、人間力育成にも力を入れおり、3月には研究テーマの披露の場を企画している。【伊藤】

#### ■基準 2 学校運営

- ・教育の質を向上させ、教育の成果を可視化し、速やかに情報公開できる体制を整備していく必要がある。【瀧山】
- ・ICT教育にも力を入れ、学内の学習環境整備の強化を図っていく。【瀧山】
- ・日本語学科では、在留管理等、コンプライアンスをしっかりと守っていく。【木村】

#### (4) 委員からの意見・質問等

##### 質問：貴治委員

教育課程編成委員会のメンバー構成について教えてほしい。

回答：東井

学生が就職を目指す業界に関する企業の担当者、コースに関わる教職員。

##### 意見：西出委員

新型コロナウイルスの影響により、企業と学校の連携方法を変えていく必要があると考えている。企業として可能な限り協力していきたい。

##### 意見：下西委員

GEAに関して、参加したスタッフより良い評判を聞いている。学生にとってより成長できる機会だと思うので、今後多くの学生が参加してほしい。

##### 質問：下西委員

教員を採用する際、採用方法や具体的な選考基準はあるのか？

回答：東井

基本的には面接を重視し、専門性だけでなく人間力、学生への指導力を確認している。

##### 質問：小椋委員

就職において、企業からいただく意見などはあるか？

回答：福本

昨年企業各位へアンケートを実施。学生への課題面として、主体性に欠けるという意見を数社からいただいた。

意見：小椋委員

大学編入において、編入後を見据えた取り組みは良いと感じる。

質問：三橋委員

企業アンケートの目的は？

回答：福本

在籍調査、学生の能力評価把握を目的に実施。

質問：三橋委員

留学生について、就労ビザへの切り替えはどの様に行っているのか？

回答：福本

原則、学生と企業間で行うものだが、必要に応じて企業へサポートしている。

意見：中上委員

新型コロナウイルスの影響により、地域活動が無い。今後の地域活動の方法について考えなければならない。

意見：原委員

学生アンケートにおいて、在籍者よりも卒業生が振り返って評価した方が、厳しい意見が集まりやすく、参考になる意見が多い。また、学生が何が出来るようになったのかを把握できるよう、振り返る機会を多くとることが必要。

質問：貴治委員

留学生の就職場所は？

回答：川添

関西での就職希望者が多い。

質問：貴治委員

1人の担任が見ている学生数は？

回答：大谷内

1人当たり20名前後の担当を基本としている。

**質問：貴治委員**

留学生支援において、学園保健室、相談室、担任の3名は連携しているのか？

回答：川添

連携している。

**質問：西出委員**

保護者アプリの導入について、効果はあったのか？

回答：東井

具体的な効果は検証中だが、情報発信がし易くなり、保護者との距離が近くなった。

**意見：西出委員**

EIPプログラム等は積極的に利用してほしいと思う。また自主的に取り組めるような環境づくりは大切だと感じており、参考にしたい。

**意見：小椋委員**

学生にとって経済的な問題は大きく、お金に関する知識を学べる機会があると良いと思う。また、留学の代替案として、同年代の海外の方と触れ合う機会の提供はとても大事だと考える。新型コロナウイルス感染防止に関する取り組みはとても良いが、当委員会の開催は密な状況であると感じている。

**意見：下西委員**

デバイス導入については、社会での活用機会も多くあるため、良い取り組みだと思う。

**質問：下西委員**

英会話において、立場が上の方と会話練習ができる機会はあるのか？

回答：山本静

カジュアルな英会話練習の場はあるが、上下関係での練習機会は現状無い。今後検討していきたい。

**意見：三橋委員**

上司と新入社員との関係について、より敬語が大切だと考えている。特に留学生は日本社会について分かっていないケースが多く、敬称や呼び名の意味を理解する必要がある。

**意見：原委員**

出席状況について、早期確認、早期対応は正しいと考えている。学生の中退防止に効果があるというデータもある。ただし、繋がる力が弱い（友達作り、自分発信）学生が多くなっている為、強制的につながりを持たせる取り組みは、学校へ来られなくなる学生が出てくる可能性があるため注意が必要。

(5) キャリア教育について

**中上委員**

ボランティア参加者を見ていると、積極性のある学生はコミュニケーション能力高い印象を持っており、コミュニケーション能力向上が重要だと考える。

**貴治委員**

キャリア教育について、以前デュアル・システムというキャリア教育に関わったことがある。その経験から積極性に欠ける学生への対応が課題と考えており、よりきめ細やかな指導が必要だと感じた。必要に応じて担任やカウンセラー等と連携して取り組んでいくことも重要だと考えている。

**西出委員**

専門学生は専門性に長けているため、その長所をより伸ばしていくことが大事だと考えている。ただし、大学生と比べて柔軟性に欠ける部分があり、今後体験型プログラムや、自身の経験を発信できる場をカリキュラムと連動して取り組んでいくと良いと感じる。

**小椋委員**

社会人としての常識について、正しい知識習得が必要。また、企画力についてアイデアを出していく力が弱いと感じる。

**下西委員**

キャリアとは長いものであり、入社 1 年目だけでなく、その先を見据えて行動することで、主体性や自主性が芽生えると考えている。また、目標設定を行い、自身に足りない部分に気づくことも大切。

**三橋委員**

3 年制コースについて、学歴はどうなるのか？

瀧山：学歴上は「専門士」の称号が与えられる。2 年制と学歴上は同等だが、学習期間が 1 年長くなることで、より能力の高い人材を輩出できると考えている。

#### **原委員**

成功事例から学ぶだけでなく、失敗した事例から学ぶことも大事。失敗した事例は身近に感じるため良い取り組みである。学園全体で良い例、失敗例のデータを集めると良い。

#### (6) 全体総括【塩谷委員長】

- 学校で専門的な知識、能力を身に付け、自信を持って発信できる人材を育成してほしい。
- 新型コロナウイルスの影響もあり、今後の時代に適応できる人材の育成が必要だと感じており、学習カリキュラムの工夫も重要だと考える。

#### (7) 閉会挨拶【瀧山】

- 委員会を形骸化することなく実施し、関係者の皆様からの意見を広く頂くことによって、適切な学校運営を行うことができると考えている。
- 本日頂戴した意見を今後の学校運営に活かし、学生に選んでもらえる学校づくりを目指していく。
- 次回、第2回開催は2021年2月20日(土)14:00~を予定。

以上